



「ふるさとの伊木力みかん」 山本健吉

山本健吉は明治四十年、長崎市生まれ。古典文学から近代文学にわたる評論や人物評論、俳句の研究と批評等、幅広い評論活動を行った。長崎に寄せる強い郷愁を感じさせる随筆も多く残している。

数々のすぐれた文芸評論活動が認められ、昭和五十九年に宮中歌会始で召人に選ばれた折、お題「緑」のもとに詠んだのが次の歌である。

ふるさとの伊木力みかん

みどりはの大き葉つけて花のごとくあり

幼い頃から親交のあった俳人の下村ひろし氏から毎年贈られていた伊木力みかんにふるさとを思う作者の心境が伺える歌である。

歌碑は、昭和六十年十一月多良見町文化協会、多良見農業協同組合によって建立された。